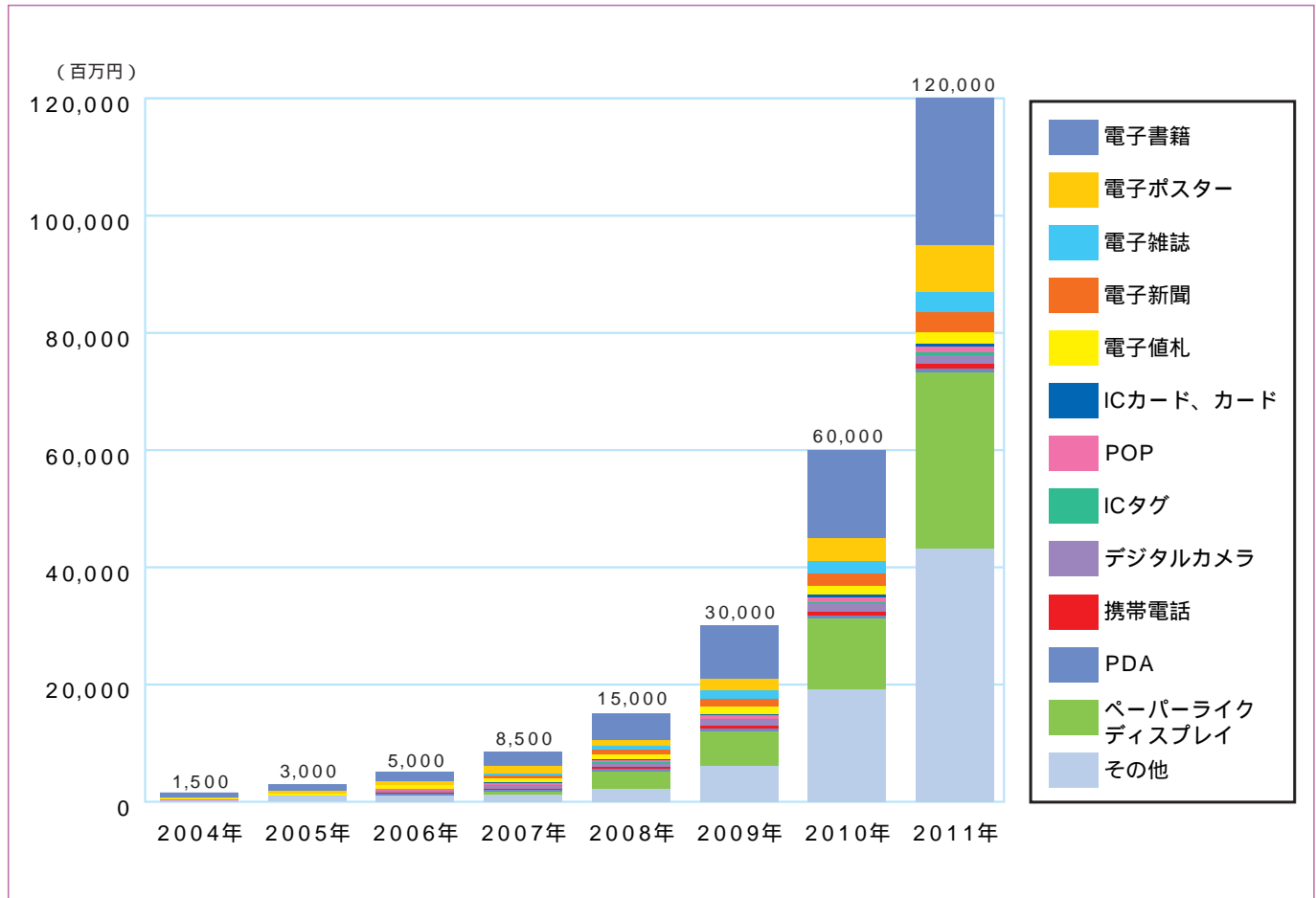


100%強の伸びを続ける電子ペーパー市場 2011年には1,200億円市場に成長

図1 電子ペーパーの市場規模予測



電子書籍端末で注目を集めた電子ペーパー。AQUARIUS最先端研究所の調べによると、ディスプレイモジュールをベースとした電子ペーパー市場は、2004年が15億円(実績)、2005年が30億円となっており、黎明期ながら2010年以降の本格市場展開へ向けて動き出したと考えられる。

量産体制第1号の電子書籍端末については、画像の切り替えに時間がかかるなど技術的な課題があり、本格的な市場形成には時間を要する見通しだが、技術的課題と価格がクリアできれば、一気に

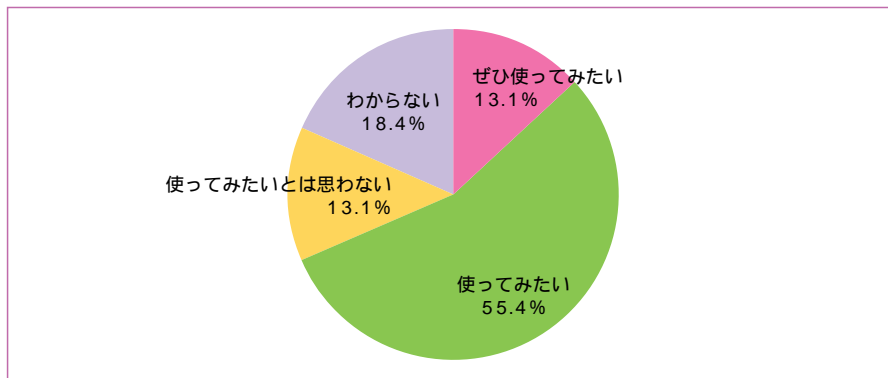
普及する可能性がある。一方、電子値札、POP、電車の中吊り広告、カード、時計などの潜在需要は大きく、当初はサンプル出荷のウェイトが高いものの、ディスプレイのカラー化、フレキシブル化、大型化などをきっかけに需要を喚起していく可能性が高い。また、巻物タイプも研究されており、こうした新製品が市場拡大の促進要素になると見ている。

2006年から2007年にかけては、大手メーカーの実証実験への着手ならびに本格参入により、市場の認知が広がって市

場拡大が進む。その結果、2008年の市場規模は150億円に達すると予測している。その後も拡大を続け、2011年には1,200億円規模に成長。2010年から2011年にかけて、電子ペーパーのディスプレイ用デバイス全体市場における市場規模比率は1%程度となり、その存在感を業界内外に示すことができるようになって見ている。

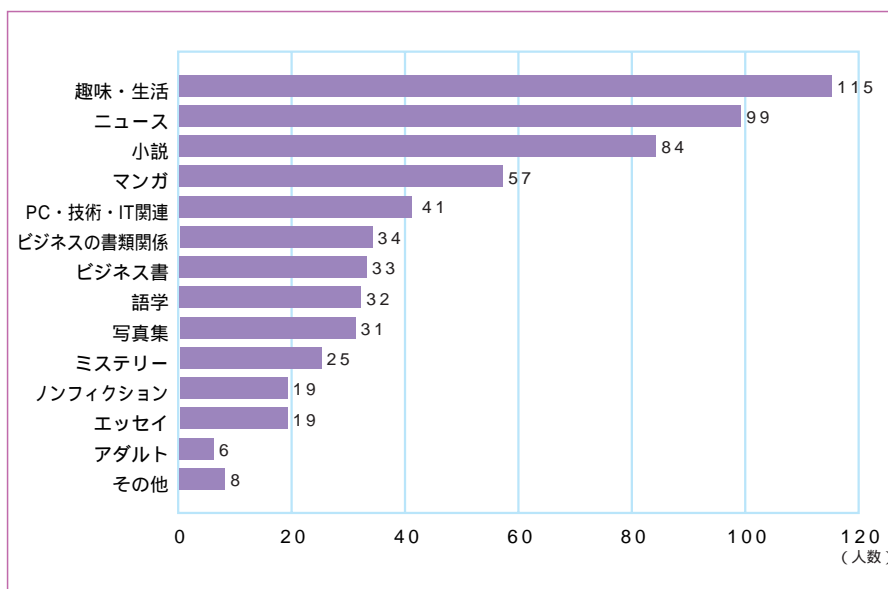
また、同研究所では、今後の市場を考えると、有機ELディスプレイ市場の動向も見逃せないとしている。

図2 電子ペーパーの重要度について N=215



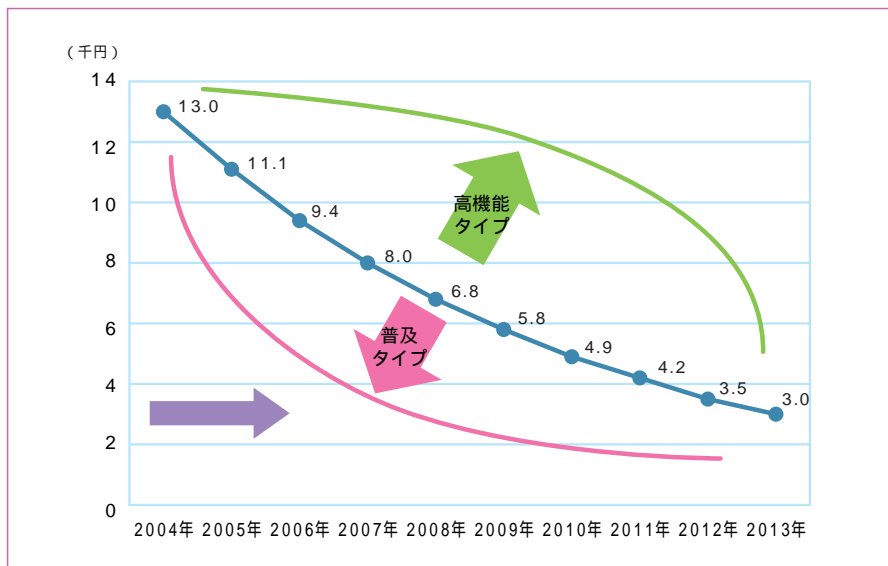
PC、ケータイと連携するペーパーライクディスプレイについて利用意向をたずねたところ、「ぜひ使ってみよう」「使ってみよう」との回答が約7割に及び、3人に2人の割合で強い関心があることがわかった。

図3 コンテンツ需要について(複数回答) N=215



モバイルタイプの薄型の電子ペーパーで見られるコンテンツとしてニーズが高いものは、「趣味・生活」がトップ。続いて、「ニュース」「小説」「マンガ」などとなっている。ビジネスの書類関係、ビジネス書などのニーズもあることがうかがえる。

図4 パーソナル向け電子ペーパー A4 換算あたりの価格推移シミュレーション



今後、カラータイプとモノクロ普及タイプ、あるいはモノクロ高機能と普及タイプというように、性能の二極化に伴う価格の二極化が起こるかもしれない。システム開発などが関係する業務用などでは、1枚10万円、5万円といったものもある。業界目標であるA4サイズ1,000円の実現は、まだまだ先のようだ。

出所 図1～4 AQUARIUS 最先端研究所「電子ペーパー応用システム製品の開発動向と市場規模予測、需要動向に関する調査」より



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp